

# 小学生の 音楽

## 4

## 指導者用デジタル教科書（教材） 音声テキスト

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

### 目次

P. 7	リズムでなかよくなろう	2	くわがね	5	
	ステップ1	2	つづみ	5	
	ステップ2	2	P. 29	インタビュー	6
	ステップ3	2	P. 35	歌声2	7
	ステップ4	2	P. 43	サミングでふくときのポイント	7
	ステップ5	2	P. 48	打楽器の音楽	8
P. 11	歌声1	3		学習活動1	8
P. 23	打楽器のリズム	3		学習活動2	8
	ギロ	3		学習活動3	8
	マラカス	3	P. 51	いろいろなマレット（ばち）	9
	クラベス	3		<small>もっかんがっき</small>	
P. 26, 27	使われている楽器	4	P. 52, 53	いろいろな木管楽器	9
	こきりこ	4		フルート	9
	びんざさら	4		オーボエ	9
	たいこ	4		クラリネット	9
	笛	4		ファゴット	9
	ぼうささら	4	P. 59	ことをひいてみよう	10
				・ ・ ・	
				つめをはめよう	10
				・ ・ ・	
				ことの前にすわろう	10
				・ ・ ・	
				ことをひいてみよう	10

## P.7 リズムでなかよくなるろう

### ステップ 1

「ア」と「イ」のリズムを使って、いろいろな組み合わせ方で、リズム打ちを楽しみましょう。

まずは、「ア」のリズムを打ってみましょう。

次に、「イ」のリズムを打ってみましょう。

はく拍打ちのかわりに、こんなリズムに合わせて打ってみても、楽しいですね。

### ステップ 2

次は、リズムをつなげて打ってみましょう。

こんなつなげ方もできますね。

### ステップ 3

今度は、2組に分かれて、1しょうせつ小節ずつ、交代しながら打ってみましょう。

### ステップ 4

2組に分かれて、リズムを1しょうせつ小節ずらして、追いかけて打ってみましょう。まず、同じ

「ア」のリズムを、ずらして打ってみます。

「ア」と「イ」のリズムを、ずらして打つこともできます。

### ステップ 5

2組に分かれて、「ア」と「イ」のリズムを、重ねて打ちましょう。

## P. 11 歌声 1

あくびをするようなつもりで、息をすってみましょう。すると、口のおくで、つめたく感じる場所がありますね。そこをよく開けて歌ってみましょう。

こんな感じになっていませんか？

このように、口のおくを開けないと、ひびきのある声にはなりませんね。

口のおくをよく開けると、ひびきのある歌声になりますね。

---

## P. 23 打楽器のリズム

### ギロ

これは、ギロです。このぼうを、このように持ち、こすって音を出します。それでは、えんそうします。

### マラカス

これは、マラカスです。軽くふり下ろして、音を出します。それでは、えんそうします。

### クラベス

これは、クラベスです。かたい2本の木を打ち合わせて、音を出します。手を丸くして、その上に軽くのせ、真ん中あたりを打ちます。それでは、えんそうします。

---

## P. 26, 27 使われている楽器

### こきりこ

こきりこは、竹でできた楽器です。長さ7寸5分すん ぶ（やく23cm）の2本の竹を、指で回しながら、打ち合わせて音を出します。

### びんざさら

びんざさらは、108枚の小さなうすい板を、ひもでとじた楽器です。楽器の両はしをにぎり、ふり合わせるようにして、音を出します。びんざさらは、こきりこに合わせておどる「ささら踊りおど」で、おどり手がえんそうします。

### たいこ

こきりこでは、「平太鼓ひらだいこ」をえんそうします。平太鼓は胸が短く、びょうで両面のかわをとめてある、たいこです。

### 笛

こきりこでは、「篠笛しのふえ」をえんそうします。こきりこでえんそうする篠笛は、指あなが6つで、歌と同じようなせんりつを、えんそうします。

### ぼうささら

ぼうささらは、竹と木でできた楽器です。竹を細かくわって束ねた「ささら竹たば」を、「ささらこ」という、きざみの入った木のぼうにすり合わせて、音を出します。

## くわがね

くわがねは、田畑をたがやすときに使う「くわ」の金ぞくの部分に、ひもをつけた楽器です。左かたに、くわがねをつるした木のぼうをかつぎ、右手に持ったばちで、音を出します。

## つづみ

こきりこでは、<sup>こつづみ</sup>小鼓をえんそうします。<sup>こつづみ</sup>小鼓は、左手で楽器をかまえ、右手で打ちます。

---

## P.29 インタビュー

こんにちは。越中五箇山えっちゅうごかやまこきりこうたほぞん会の岩崎喜平いわさききへいです。よろしくお願いします。

こきりこは、毎年、春と秋のお祭りに「上梨白山宮」かみなしはくさんぐうに、歌、おどりを奉納ほうのうします。

女せいの「こきりこ」に、しでしでをつけまして踊る「しで竹踊り」おど。男せいの「びんざさら」

を持っておどる「ささら踊り」おど。そして、女せいの「手踊り」ておどと、3種類しゅるいあります。

五箇山ごかやまの「こきりこ」は、「合掌造り」がっしょうづくの天井てんじょうの、すのこの材料ざいりょうとして使われた竹で、

できています。昔は、いろりいろりで火を起こしたり、暖をとったり、食事たんをしたりしてしまし

た。天井てんじょうの竹は、いろりのけむりでいぶされて、よく乾燥かんそうして、ひびくようになります。

ですから、とてもいい音がします。

こきりこをこのように持って、回しながら打ちます。

みなさんも、こきりこを打ちながら、歌ってみてください。

お祭りほうのうで奉納するために、小さいころから歌やおどりに、親しんでおります。また、このちいきに住む、その他の子どもたちも、小学校の学習発表会で、「こきりこ」をおどっております。

それぞれのちいきには、いろんな楽しいこと、大切なことが、たくさんのおこされております。みなさんも「こきりこ」を通して、ちいきのことを見直してほしいと思います。

---

## P. 35 歌声 2

「ゆかいに歩けば」の歌は、スタッカートで歌うところがありますね？ スタッカートを生かして歌うには、わらったときのように、おなかの動きを感じて、軽くはずむようにするといいですよ。こんな感じです。

高い音から下がってくるときも、ひびきの位置いちが下がらないようにすると、いいですよ。

---

## P. 43 サミングでふくときのポイント

リコーダーで、高い音を出す方法ほうほうを、覚えおぼましょう。こうして、後ろの親指のあなに、小さなすき間を開けることを、「サミング」といいます。高い「ミ」、「ファ」、「ソ」の音を出すときに、このサミングをします。サミングをするには、親指を少し曲げるか、親指を下にずらして、小さなすき間を開けましょう。では、教室のみんなも試ためしてみましょう。

(～♪)、はい。

歌を歌うときのうら声のように、(～♪)とひびかせると、きれいな音になりますよ。

(～♪)、はい。

今度は、(～♪)と、えんそうしましょう。(～♪)、はい。

強い息でふかずに、うら声で歌うようにふくと、きれいな音になりますね。

---

## P. 48 打楽器の音楽

### 学習活動 1

これらのカードは、いろいろな音の様子を、図形で表したものです。音のひびきをたしかめながら、カードを使って、打楽器の音楽をつくりましょう。まずは、いろいろな楽器を使って、鳴らし方を工夫しながら、「ア」から「エ」のカードの図形を、音で表しましょう。

「『ア』のリズムを、ウッドブロックでえんそうします。音の高さも工夫しました。」

「『ウ』のリズムを、すすでえんそうします。だんだん強くなる様子を工夫しました。」

### 学習活動 2

ここからは、3人の組になって、音楽をつくります。まずは、音のひびきあいをたしかめながら、組み合わせる楽器を選びましょう。このグループは、次の3つの楽器を選びました。

「わたしたちは、木でできている楽器を組み合わせ、音楽をつくりました。3つの音のひびきは、こんな感じですよ。」

### 学習活動 3

選んだ楽器を使って、音楽をつくります。音楽をつくる時のルールは、3つです。始めの部分と終わりの部分は、1枚のカードを選んで、3人でいっしょにえんそうすること。真ん中の部分は、カードを自由に組み合わせ、つくること。「ア」から「エ」の4種類のカードを、すべて使うことです。それではこの例をえんそうしてみます。



## P. 51 いろいろなマレット (ばち)

<sup>もっきん てっきん</sup>木琴や鉄琴をえんそうするときを使うマレットには、いろいろな<sup>しゅるい</sup>種類があります。マレットをかえたり、打ち方をかえたりすると、音色をかえることができます。それでは、いろいろなマレットで、「茶色の小びん」の<sup>もっきん</sup>木琴パートをえんそうしてみます。まず、糸まきのマレットで、打ってみます。  
糸まきのマレットで、打ってみます。  
ゴムのマレットで、打ってみます。  
かたいゴムのマレットで、打ってみます。

---

## P. 52, 53 いろいろな<sup>もっかんがっき</sup>木管楽器

### フルート

これは、フルートです。

### オーボエ

これは、オーボエです。

### クラリネット

これは、クラリネットです。

### ファゴット

これは、ファゴットです。

---

## P. 59 こつをひいてみよう

### つめをはめよう

こつをひくときには、このように、右手の親指、人さし指、中指に、つめをはめてえんそうします。つめは、「つま皮」の部分が、自分のつめの根元までくるように、しっかりと深めに、はめましょう。

### こつの前にすわろう

角づめでえんそうする場合は、この「磯<sup>いそ</sup>」の部分に、右ひざがあたるように、こつに対して、少しななめにすわりましょう。

### こつをひいてみよう

角づめの場合は、つめの角で糸をひきます。このように、手がつぶれてしまうとひきづらいので、手の中に、たまごが入っているようなイメージでかまえます。

こつは、このように、ひく場所によって、音色がことなります。「竜角<sup>りゅうかく</sup>」から2～3cmはなれた、このあたりをひくと、楽器が一番よくひびきます。

---